

## 1990 年 農 林 災 害 の 概 要

### Review of Agricultural and Forestal Disasters in 1990

北海道大学農学部

町村 尚・堀口 郁夫

Dept. of Agricultural Engineering, Hokkaido University

Takashi MACHIMURA and Ikuo HORIGUCHI

#### Abstract

In Hokkaido, it was relatively clear and hot in warm half year of 1990 and there were few agricultural disasters. And the yeild of many crops were much than that for the average years, however beans and potato suffered serious damage due to intermittent rain during September and October. Besides it, there were some small damage due to flood and storm in 1990.

キーワード：1990 年 9 月から 10 月の雨害

平成 2 年 (1990 年) の北海道は暖候期の好天と高温に恵まれ、また気象災害も少なく、多くの農作物が平年作以上の多収量を記録した。しかし 9 月から 10 月にかけて断続的に降り続いた雨によって、豆類やバレイショなど一部の農作物は深刻な不作にみまわれた。この他、小規模な水害や強風害が発生した。

一方、全国的には農林災害の多い年であった。6 個の台風が上陸するなど水害が頻発し、特に 7 月の梅雨前線による九州地方の集中豪雨や、9 月の台風 19 号による西日本の水害は甚大な被害をもたらした。また 8 月には西日本を中心に猛暑と少雨が続き、野菜や果樹が干害を受け、また高温による家畜の死廃数も過去最高となった。

## 1. 9月から10月の雨害

9月中旬から10月中旬にかけて、北海道は低気圧や前線の影響を受け、雨の多い状態が続いた。降水量は胆振の太平洋岸、日高、十勝、上川、網走などで平年よりかなり多かった。紋別と浦河では9月に月降水量の極値を更新するなど、平年の2倍以上の月降水量を記録する気象官署もあった。日照時間はかなり少なく、平年の半分余りしかない気象官署もあった。各地の9月の月降水量および日照時間を、表1に示す。

この長雨の影響で、十勝、網走、釧路などの支庁で菜豆やバレイショに大きな被害が発生し

表1 9月の月降水量および日照時間（札幌管区気象台）

気象官署	月降水量(mm)			日照時間(hr.)		
	観測値	平年値	平年比(%)	観測値	平年値	平年比(%)
旭川	298.0	134.2	222	133.6	150.3	89
網走	166.5	97.9	170	142.9	167.3	85
雄武	133.5	123.5	108	147.7	168.0	88
紋別	212.0	110.8	191	145.7	162.1	90
釧路	204.5	141.4	145	84.6	151.9	56
帯広	236.0	125.8	188	105.1	143.5	73
広尾	483.5	229.1	211	87.4	149.2	56
室蘭	305.5	151.4	202	150.9	169.8	89
苫小牧	366.5	172.5	212	132.1	156.1	85
浦河	290.5	135.4	215	130.4	177.2	74

表2 平成2年産菜豆の支庁別収穫量（農水省札幌統計情報事務所）

支庁	作付面積(ha)	10a当収量(kg)	収穫量(t)	作況指数
石狩	171	207	354	97
空知	171	188	321	103
上川	1,160	189	2,190	90
留萌	165	148	244	99
渡島	13	165	21	116
檜山	8	150	12	107
後志	36	244	88	125
胆振	1,040	269	2,800	121
日高	2	168	3	104
十勝	14,300	130	18,600	67
釧路	0	129	0	108
宗谷	—	—	—	—
網走	3,220	167	5,380	80
根室	—	—	—	—
全道	20,300	148	30,000	75

た。この時期は菜豆の収穫期にあたるが刈り取った豆をにお積み乾燥できず、「大手亡」や「金時」などの品種で大量の腐敗粒や色流れが発生した。表2に、支庁別の菜豆収穫量を示す。作況指数は主産地の十勝で最低の67となり、これが影響して全道の作況指数も75であった。バレイショでは地盤が湿潤で収穫機が圃場に入れず、収穫されないまま塊茎腐敗が発生した。この雨害の被害額は十勝が68億円、網走が17億円、釧路が1億円、全道で86億円に上ると算定された。

## 2. その他の農林災害

平成2年3月12日から13日にかけて、日本海西部に発生した低気圧が急激に発達しながら北海道南岸を通過した。このため道東地方では暴風雪となり、最大瞬間風速は根室で34.8 m/s、網走で31.9 m/sを記録した。網走支庁ではタマネギ、てん菜、長ネギの育苗用やチューリップなどの花卉用ビニールハウス約1,500棟が倒壊した。

11月4日から5日にかけて、発達した低気圧が日本海から北海道の南岸を通過した。このため渡島、十勝などの太平洋岸で大雨となり、降り始めからの降水量は南茅部195 mm、蛾眉野(函館)167 mm、糠内(幕別)158 mm、広尾141 mmなどを記録した。十勝支庁では秋まき小麦やお積み乾燥中の豆類圃場、牧草地に1,500 haの冠水被害が発生し、排水路や排水暗渠も被害を受けた。